

福岡俘虜收容所月報抜萃（昭和十九年六月）

昭和十九年陸軍密第三八二七號其類等の節用に関する件及昭和十九年陸軍密五五一一號俘虜の米麥給與定量に関する件に基き新たに改定俘虜糧食給與計畫を設定六月一日より之に準據し給養を實施す其の定量左の如し

勞役に服する俘虜 米麥一人一日 七〇五瓦

力業に服せざる准士官以下俘虜 〃 〃 五七〇瓦

將校同相當官 〃 〃 三九〇瓦

米麥拂出は全俘虜七〇五瓦を以てし勞務健康の状況により前記の分配を1なし分配による残量は勞務激甚、健康低下の俘虜に給與し適正を圖り其の成績は概ね良好なり

ロ 炭礦勞務に服しある派遣所に於ては地方配給機關より同一勞務に従事しある邦人勞務者と同量の配給米麥七一〇瓦を受け雜穀豆類混入を行ひ概ね分所に準じ給養を實施しあり

ハ 米麥需給の關係より各分（派遣）所共給養計畫に基き米麥代用食の混入率を三分比を以て給與しあり

ニ 久留米師團よりの小麥粉の割當六月分なく各所共にパン食給與に支障を來し師團に對し之か割當方交渉中にて來月より入荷の豫定なり

2 副食

イ 主食減量と補足代金三錢の交付とにより栄養補給は副食に負ふ所大となりたる爲副食調製に努力すると共に現地自活に徴し勞務に對する健康維持に遺憾なきを期しあり

ロ 副食物の取得は概ね圓滑順調にして特に生野菜の入手良好なり生魚類の入手は概ね順調なるも獸肉類は月間二、三、十四、十七分所にては取得困難なり

ハ 献立は浮房は浮房の嗜好を考慮し、カレー粉、胡椒、食油等の使用を多くし調理は一日所要量を交付の上浮房をして爲さしめあり

ニ 各分派遣所月間平均一日熱量三〇九二、八四カロリー平均体重六〇斤一五三にして詳細左表の如し

所名	一日平均	所名	一日平均	所名	一日平均	平均カロリー
第一分分	三、一六六	第十四分	二、六三七	第六派	二、九八四	
第二分	三、一五〇	第十七分	三、一一〇	第八派	三、一二四	
第三分	三、五七六	第二十二分	三、一二〇	第九派	二、八〇六	三、〇九二カロリー
第四分	二、八四二	第三派	三、二一九	第十派	三、〇一三	
第一派	三、〇二三	第四派	三、〇一〇	第十一派	三、二五七	
第二派	三、〇三二	第五派	二、八一〇	第十二派	三、五〇〇	

文書ノ出所竝ニ成立ニ關スル證明書

(三號)

自分、横井考治ハ俘虜情報局調査課長ノ職ニ居ル者ナル處、竝ニ添付セラレタル日本語ニ依ツテ書カレ三頁ヨリ成ル福同(俘虜收容所)月報ト題スル書類ハ日本政府(俘虜情報局)ノ保管ニ係ル公文書ノ拔萃ノ正確ニシテ眞實ナル寫シナルコトヲ證明ス

昭和二十二年八月十八日 於東京

横井考治

右署名捺印ハ自分ノ面前ニ於テ爲サレタリ

同日於同所

立會人 飯島伊三郎